

令和6年度 第1回 長崎市外海の石積集落景観整備活用委員会

第1 日時

令和6年9月19日（木）13時00分～15時00分

第2 場所

出津地区ふれあいセンター（長崎市西出津町2794-1）

第3 議題

- (1) 令和5年度モニタリング結果及びモニタリング計画
- (2) 令和7年度補助事業 f 家のネリバイ建物保存活用事業
- (3) 整備活用計画における「観光拠点施設計画」の今後の方針

第4 審議結果

議題1 令和5年度モニタリング結果及びモニタリング計画

令和5年度のモニタリング結果及び現在進めているモニタリングの計画について、事務局より配布資料に基づいて説明を行った。

【委員】

丁寧なモニタリングで素晴らしいと思う。今年度全ての構成要素を周るということだが、来年度以降も毎年確認していくかなど、計画を教えてほしい。

【事務局】

これまでモニタリングが十分にできていなかったため、今回が一周目になる。モニタリング管理簿を作成した後も基本的には毎年行おうと思っている。ただし、劣化が進んでいたり、所有者が現況確認をできないなど、構成要素に優先順位が付いてくると思うので、そこを重点的にモニタリングしていこうと考えている。

【委員】

負担をかけ過ぎずに継続性の高いものにしてもらえれば。

【委員】

モニタリング管理簿の中で現況写真を記録する項目があるが、今後ドローンを使うような可能性はあるか。

【事務局】

今のところ考えてはいなかったが、モニタリングをしていく中でドローンでないと確認できない場所がでてきた場合は、ドローンの使用に関する規制等も確認して検討しようと思う。

議題2 令和7年度補助事業 f 家のネリバイ建物保存活用事業

来年度予定しているf家のネリバイ建物保存活用整備について、所有者からの委託を受けた業者より配布資料に基づいて説明を行った。

【委員】

初めて外海地区に来た人に紹介する際、出津教会堂が説明しやすいが、ド・ロさまと

歩くミュージアムの中に出津教会を入れる可能性はあるのか。

また、来訪者からすると、外海歴史民俗資料館、ド・ロ神父記念館、旧出津救助院でそれぞれ料金を取られると入館する意欲が無くなると思うので、そこを統一すると満足感の向上につながると思う。行政も協力して実現してほしい。

【所有者からの委託を受けた業者】

資料の地図の範囲の関係で落とし込めてないが、フィールドミュージアムとしては出津教会もルートに位置づけている。

【所有者】

出津教会堂については長崎大司教区の所有になっていて、教会守も常駐しているので、ド・ロ神父と出津教会堂の関係等について説明を受けることができる。ド・ロ神父が一番大事にしていた場所であるので、ぜひ立ち寄ってほしいという思いがある。

【委員】

ヨーロッパの場合は、ミュージアムの常設展もしくは平常展の入館料を基本的にとらないところが多い。オランダは特に進んでいて、公私立のミュージアムの共通入館券（ミュージアムカード）を発行しており、そのカードでオランダ国内のミュージアムがほぼ全て入れるような仕組みがある。そろそろこのような国際的な動きを長崎市においても浸透させるべきだと感じている。市が運営する博物館や民有の博物館等の関係性について今後整理してもらいたい。

議題 3 整備活用計画における「観光拠点施設計画」の今後の方針

整備活用計画で記載している「観光拠点施設計画」の今後の方針について、事務局より配布資料に基づいて説明を行った。

【委員】

ド・ロさまと歩くミュージアムについて、ド・ロ神父記念館など様々な施設があるが、それらを周る順番は指定されているのか。

【所有者からの委託を受けた業者】

そこはまさに検討中である。小田平周辺にある施設と少し離れている場所にある施設もあるので、今後方向性について検討していかなければならない。

【委員】

ルート設定をしている場合、例えば施設 1 から施設 2 に行くまでに何分かかるので、その間に休憩所を設けようというような計画をすることができる。そのような意図からお尋ねした。

【所有者からの委託を受けた業者】

繋いでいくためには、沿路の整備も必要。これまでは施設の中の展示物を見ることが中心であったが、特にド・ロ神父記念館については建物そのものにも見るべき箇所がたくさんある。特に裏側から見る視点は現在確保されていない。施設を繋ぐルート設定をする中で、これまで見えてなかった側面をみていただく。その間に腰を下ろしてみただくような場所などを計画的に配置できればと思っている。

これまで個別に整備されてきた施設を一つ一つの建物にテーマを設定して、それを順番に見ていくことによって一連のストーリーとして繋がっていくという構成を大事にし

ていきたいと考えている。

【委員】

施設を訪れた際に御朱印帳のようなものに証明がもらえて、全部回ったら記念カードがもらえるような仕組みをヨーロッパでいくつか体験したことがある。今後の計画のなかでご検討いただければ。

【委員】

さまざまな点を結ぶルート設定は非常にいいと思うが、徒歩で回るとするのは高齢者や子供にとって厳しいと思う。カートの導入を検討するとか、どのように周遊するかの詳細を詰めていかないと、健康な人しか周れないルートになってしまう。

来訪者の方は潜伏キリシタンに関連する近世の歴史を保存しているという認識で来る人が多いと思う。そこで、ド・ロ神父の話になると時代が少しずれる。遺跡はいろいろな時代をまたぐのでよくある話だが、ハイライトが当たるのはド・ロ神父なのか潜伏キリシタンなのかははっきりさせないと、思っていたものと違ったという意見や歴史を誤解して帰るという事態が起こりかねないので、その色分けをしっかり行う必要がある。二つの話が混在しているので、来る人が混乱しないように工夫する必要がある。

外海地域は地理的に訪れるのが難しい場所になっている。ルーブル美術館などではVRで疑似体験ができるようにしており、VRの発信を通して興味を持ってもらった人は、実際に来てくださいという発信の仕方をしている。海外ではそういった美術館や博物館が増えてきているため、デジタル上の発信を積極的にしていくことで集客につながるのではと思う。

【所有者からの委託を受けた業者】

2点目に関してまさにそのとおりだと思う。何か一つを選ぶのではなく、重層しているストーリーをどう扱うかということ。近世からの基督教の歴史としての文脈で整理することができるものとド・ロ神父の物語が重なっている。そのことに大きな意味がある。加えて文化的景観の価値をどのように発信していくかという議論もあるため、そうすると3つが重なり合っているということになる。

例えば、来訪者の方に分かりやすいように、青色のサインをたどれば近世の基督教の歴史、赤色のサインをたどればド・ロ様の物語を学ぶことができるというように色を分けてサインを整備するなどの工夫が必要だと感じている。

文化的景観が分かりづらくなっているというのが我々が懸念しているところ。外海歴史民俗資料館が全体的なガイダンス機能を持ち、f家は文化的景観の第二期を紹介するという形だが、ほんとにそれでいいのか整理が必要。来訪者にとってはかなり分かりにくいと思う。

【委員】

地元の委員としてお願いしたいことがある。f家のネリベイ建物はバス停の前にある。観光客がバス停を利用することもあるが、ほとんどが地元の方々。雨宿りできるような場所として整備してもらいたい。

また、観光客が外海の出津集落駐車場に自家用車で来る場合が多いが、石積集落景観のパネルを少しだけ見て帰ることが多い。そのため、駐車場でもパンフレットの配布などを行い、理解を深めることができる場所にすればいいのではないか。

地元の人はい田平を「こだびら」と呼ぶ。所有者からの委託を受けた業者は「こたびら」と言っていたが、どちらかに統一した方が地元の人たちにも説明しやすいのではと思った。

【委員】

ガイダンス計画と交通の計画（ルート）を一緒に整備しないといけない。エントランスの機能を持つ施設は「入りやすい」必要がある。正直、外海歴史民俗資料館は土地勘が無いと入りづらい。整備活用計画に動線計画があったかは分からないが、車両とかバスとかの流れを考えていかないといけない。歴史民俗資料館が全体の概要を示すガイダンス施設ということだが、正直入りやすくはない。

私が関わっている天草市の崎津集落は橋を渡ってすぐガイダンスセンターがあって、そこに車を止めて歩いて集落を周るような仕組みになっているので、目立って入りやすい場所に位置している。それを新しく作るのは難しいと思うが、そういった視点が大事になってくると思う。

コンテンツに関しては、世界遺産とド・ロ神父と重文景の関係が説明しづらい。その関係を整理する展示を期待している。f 家に関してはどのくらいのガイダンス性を持たせるかというのはもう少し議論するべきだと思うが、f 家でしか体験できないこととしては、ネリバイに触れるということだと思う。ネリバイに触れるということのを大事にして、改修していただければと思う。